

令和2年9月23日(水)

1 開会（教頭）

2 校長挨拶（校長）

コロナ禍における学校の対応について

馬頭高校ホームページにおいて部活動等の動画をアップ→ご覧下さい。

3 学校運営協議会会長挨拶（若園）

前は Zoom による参加（長所・短所ある）

本日はリアルで忌憚のないご意見でよい協議会になるようご協力下さい。

4 議事

（1）普通科再編について

校長：文科省 7 月 17 日付資料より（資料 p2～3）

○各学科・課程に共通して取り組むべき方策

・スクールミッションの再定義・スクールポリシーの策定や地域社会や高等教育機関等の関係機関との協働を挙げている

○学科の特質に応じた教育実践の充実強化

・地域や社会の将来を担う人材の育成を図る→ 本校に該当、手を上げて良いか提案

可能なら普通科の中で、那珂川学の活性化を目指してコンソーシアムを立ち上げ、地域と一体となってやっていきたいと考えている

若園：今までの普通科を地域系学科と学際系学科に分けて考えていく

校長的にどんな良いことがあるのか

校長：那珂川学を系統的に学ぶことができる→充実した那珂川学

卒業して地域の活性化に役立てることができる

大金清：那珂川学が素晴らしい

これからはもっと掘り下げて、那珂川町の現状を知り、県より先取りしてやっていただきたい

校長：県教委からの回答は白紙である

小川：役場に就職させる→地元に残ってほしい→那珂川町を盛り立ててほしい

若園：大学としても人ごとではない。手を上げることによって何が良かったのか3年後問われる。

そのときに役場に就職できれば実績として残せる。

吉成：文科省資料により国がいよいよ本腰を入れたと感じられる。国が地域のために動き始めた。

超えなければならないハードルはある。早めに舵を切る必要がある。教育委員会からサポート受けながら前向きに取り組んでほしい。

若園：いつからやるのか 2023 年度？

県教委：具体的にはまだ決まっていない。

若園：国のタイムスケジュールが出ていない。もう少し情報が欲しい。固まってから議論。
情報を収集してほしい

（２）学校開発製品の地域への提供について

校長：今まで…ナマズの養殖、ホンモロコ等

これから…創生なかがわでのコールラビ生産 ユウキ食品での魚醬

他にも那珂川フォー・ししまるバーガーやキクラゲ使ったレシピの共同開発

これらを学校PRとしてできないか

リバーマップ 1500 部作成 小学校と協賛企業に配布し、ほぼ無くなった。

あゆ製品や魚醬をふるさと納税の返礼品にできないか

若園：リバーマップは良くできている

大金清：キャビアをもっと量産化できないか

青木：水が少なく現状維持が精一杯。多いときは 100 瓶とれるが、通常 20 瓶程度

大金清：水不足が課題となっている。

校長：県（施設課）への要望はしたが厳しいとの返事

大金清：継続的に要望するしかない

小川：コールラビと巨大キャベツもいいが、冬に食べる野菜を作ってみたい。

ホンモロコがふるさと納税の返礼品になった。冷凍品は難しいと思うが、魚醬であればふるさと納税の返礼品に申し出ればできるのではないか

若園：どんなものが返礼品になるのか

校長：魚醬や缶詰は提供できると思う。

若園 キャビアはどうですか？収穫量が少ないから限定品にすれば人気になるかも。

レシピを出せないか。

校長：どうやって出せばいいのかわからない。情報があればお知らせ願いたい。

小川：ホンモロコの料理法は卒業生の磯野さんが考察し広報に紹介された

田島：学校開発製品ノウハウの提供は無料ですか

校長：ノウハウは無料です

田島：学校において利益追求してはいけないのか

校長：学校には一切利益は入らない。（県へ）

レシピを利用した企業からの寄付は良い

田島：後は販路の問題ですね

小川：やりたい人を募るのは学校ではできないのか？

校長：できる。実際、創生なかがわで行っている

田島：地域的な制約はありますか？ネットで販売できれば。

校長：ないが、地元の企業に手を上げてもらった方が地域貢献になる

吉成：道の駅に出すのはどうでしょう

校長：販売するには農業高校ではないので厳しい。一定の量を確保しなければならない
水産科なので魚醤はできるが、農産物の販売は難しい

青木：教育の実験実習費で農作物を作っているの、売ることはいできない。

若園：地元の企業とつながりを持つことが重要。いずれは就職につながるのでは。

吉成：巨大キャベツ等を道の駅で販売するより、広報という意味でインパクトがある
(みんなに知ってもらう活動)

校長：馬頭高校で作ったものを地元の人が作ってくれる(馬頭高校のノウハウにより作る)ことが
広報され、地元農家での特産物となるとよい。

若園：「馬頭高校発祥」という枕詞にしてほしい。

大金清：農業科の復活ですね

小川：新聞記事も増え、広報に載ると非常に嬉しい

大金清：普通科でこれまでやっているのはすばらしい

若園：記事は学校から？

校長：下野新聞やケーブルテレビさんが快く受けてくれる。
何か開発ルート等の情報があればお願いしたい

(3) 学校の魅力化、特色化について

若園：先日馬頭高校の若手の先生と話をすることで、地域連携は大きなトピックである。
商工会と話しアピールしていく
小中学校にもアピールしていく→先輩が頑張っている→高校は楽しいところ
那珂川学について 週1回ではコマ切れなのでまとめてとればよい。
支援チームを作成することで負担の分散になる→校務分掌
魅力化・特色化で何ができるか

大金清：実際に在学する生徒が喜んで元気にやるのが魅力化である。
生徒、教員、保護者との連携ができる→良い学校

若園：広報みても良い学校だと分かる

校長：PRについて…生徒募集ポスター(資料 P.11)を作成・各中学校に配付し掲示
道の駅みわ及び太子に掲示を依頼 常陸大宮と太子の中学校にもPRする予定

大金浩：ポスターすばらしい
学業の写真があるとなお良い
国公立大学合格の情報も発信
就職 100%を強調すると良い
学校だよりつくると良いのではないかと(中学校の先生方にも知ってもらえる)

若園：昨年度からの懸案事項である下宿の問題
下宿生の紹介ができると良いのではないかと
インタビュー等生の声を聞くことで保護者の安心材料となる

校長：学校だよりについて考えてみたい

他校では学校だよりを作ってホームページにアップしているところもある

若園：リバーマップのような面白い企画をもっとシリーズ化してほしい。これを見て、自分も作ってみたいと思う中学生もいるのではないか。ただ、増刷する予算がない。

カラー印刷は高いが、白黒で出して経費を削減したと思われるのは本意では無い。

Webアプリの開発はできないか？

追加で何かできればいいが、いくらで何ができるか

スポンサーを探さないといけない。

校長：今回はロータリークラブ等で協賛金を出していただいた。那珂川町で予算を出してくれるというなら（観光にも活用できる）原稿はこちらで作成する

小川：10/18になかがわ水遊園でのイベントがある。内容は未定だが、水産科とコラボしたい学校PRになるので協力をお願いしたい

岡：魚醬の品質は一定なのか？美味しくなるよう改良はしているのか？

田中：同じものは二度とできない。今は注文が多いので、3ヶ月サイクルで作っているため、均一性を保つよう作っている。保存期間を変えると熟成の仕方が変わるので味も変わる。

岡：中身の改良・研究は必要（企業努力）

美味しい物は売れる どこでも作れるものは売れない。研究を重ねて、他では真似できないものでPRできればよい。

校長：現状は作るそばから売っている状態

企業に作ってもらい、改良に特化できれば理想だが、手が回らないのが現状である。

岡：研究開発に力入れてほしい

（４）その他

若園：経過報告

①避難所について

事務長：協定書締結し印を押す段階 避難所に指定されても追加予算はない

大金清：協定書にコロナ禍に関することは入っているのか

事務長：入っていないが、疑義が生じた場合、町と協議するという文言が入っている。何かあれば協議する。

②キャリア指導、進路指導について

若園：コロナで遅れていたが、その後どのようなになったか。

校長：資料P16にある建設業ガイダンスやP5 自衛隊による礼法指導等のように、徐々に遅れを取り戻している

就職試験は10月16日から 1ヶ月遅れとなった。

傾向として、例年より進学が多くなっている。

田中：3年生の状況…人数が少ないことと求人票もある程度あることで今のところ順調である。面接など時間が作れている。これからが大切。

石川：私の子ども（生徒）は進学希望で指定校推薦 11 月試験なので面接練習やオープンキャンパスへの参加、勉強など頑張っている。

不安はあると思うが学校が楽しいといっている。

吉成：来年度入学生獲得のため、コロナ禍でも安心して学ぶ環境ができていることをアピールしていくと良い

若園：卒業していく生徒と入学してくる生徒の両方をみていかなければならない。魅力化について引き続きお願いしたい

青木：リバーマップ 1500 部で 10 万円かかった

大金浩：資料 P15 にある子ども食堂について教えて欲しい

小高：社会福祉協議会で子ども食堂に月に 1 度お弁当を提供しているが、その中に食材を入れていた。

大金浩：キャベツの収穫の写真（資料 P15）から ここに小中学校が入れないか。
 種植えや収穫など

若園：小中学生に先輩高校生が先輩風を吹かせるのは良いと思う。勉強になる。特に中学生とできるとよい。

校長：小学校とは連携しているが中学校は興味が様々なので難しい

第 3 回学校運営協議会は 12 月予定

第 4 回 〃 3 月予定だが修学旅行等のため 2 月開催も視野に検討